

各自治体の課題と取組

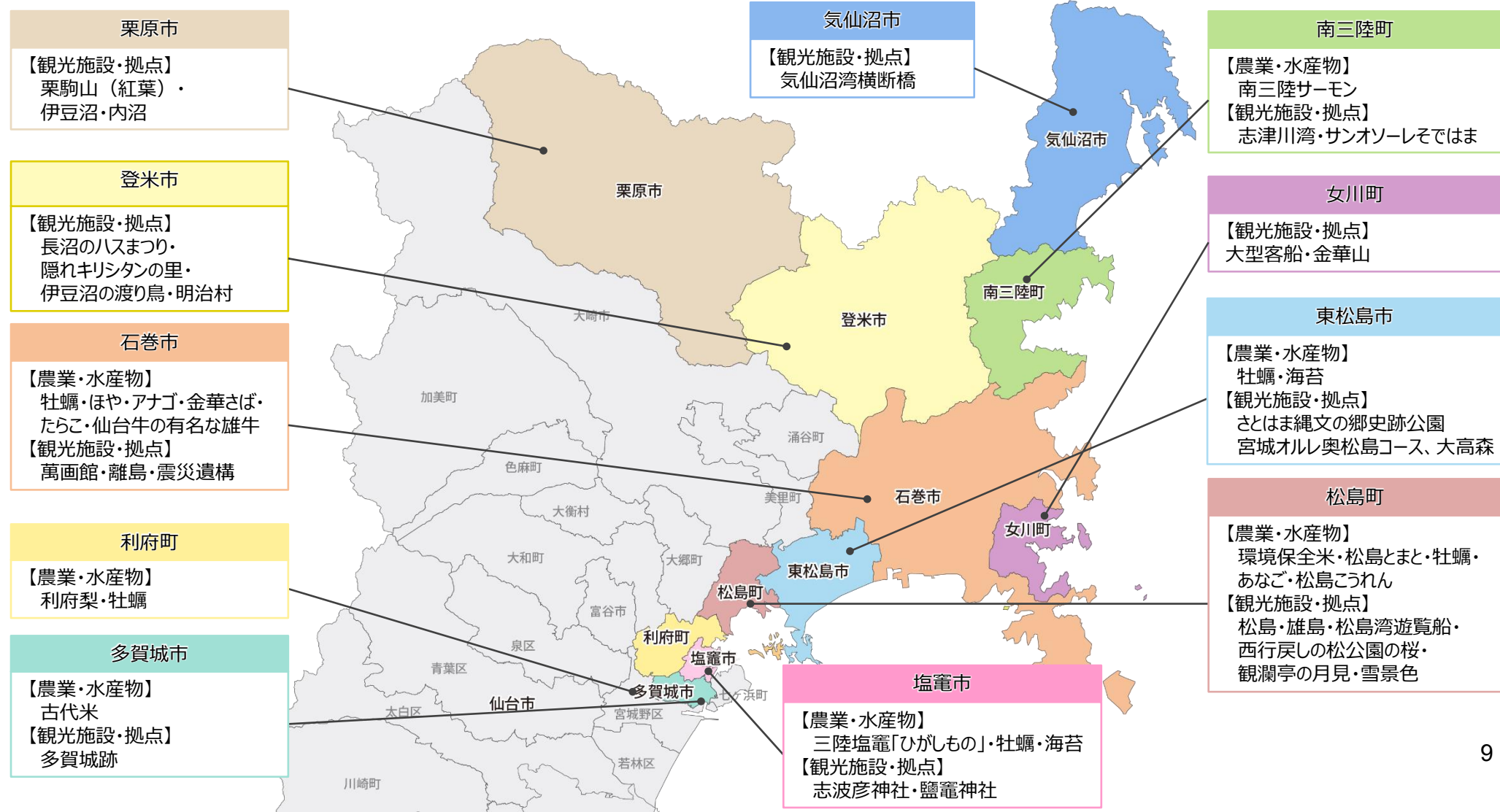
事前アンケート・ヒアリングの実施概要

	事前アンケート	ヒアリング
趣旨	第3回三陸沿岸道路利活用戦略会議の開催に向けて地域活性化策を検討するにあたり、三陸沿岸道沿線自治体の皆様から広くご意見を頂くために実施	第3回三陸沿岸道路利活用戦略会議の開催に向けて地域活性化策を検討するにあたり、更に詳細なご意見を頂くために実施
対象地域	三陸沿岸道路利活用戦略会議参加自治体	石巻市、気仙沼市、登米市、東松島市、松島町、女川町、南三陸町
実施概要	書面での回答	対面ヒアリング
質問項目	<p>【地域全般に関する設問】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農産物や水産物等の特産品、観光地等、全国へPRしていきたいものについて 2. 地域活性化を行うために、産業、農業、観光、交通、まちづくり等の様々な面において、現在地域が抱えている課題について 3. 地域活性化のため、実施中・実施済みの施策について 4. 地域活性化のため、実施予定・検討したい施策について 5. 他自治体と連携し、実施中・実施済みの施策について 6. 他自治体と連携し、実施予定・検討したい施策について 7. 施策を検討、実施する上で抱えている課題について 8. 施策を検討、実施する上で三陸沿岸道路に求めるものについて <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三陸沿岸道路利活用戦略会議にてご紹介したい内容について 2. 三陸沿岸道路利活用戦略会議にて他市町と協議したい内容について 	

事前アンケート・ヒアリングの結果(PR項目)

- 地域を代表とする人気観光施設やまだ知られてない良い観光施設が数多く挙げられている。
- 特徴として、沿岸地域のため水産物が多く挙げられている。

自治体でPRしたい項目



事前アンケート・ヒアリングの結果(自治体意見の抜粋)

- 産業面では、工業団地の造成や企業の立地が進められている。
- 三陸沿岸道路の整備により、運送時間の短縮や輸送先の拡大に寄与。一方で、東北道ルートから三沿道ルートへの転換に関して、三沿道は休憩施設が少なく不便である点が課題として挙げられている。

■産業

		自治体意見
現状	工業・産業団地、 企業立地	<ul style="list-style-type: none"> ○登米IC付近に「登米インター工業団地」、県北高速沿いには「長沼第二工業団地」があり、企業誘致を進めている(登米市) ○工業団地、産業団地で多くの企業が立地(東松島市) ○松島大郷ICと松島北ICの間に工業団地を造成(松島町)
	物流・輸送	<ul style="list-style-type: none"> ○女川町は魚の町で、高速道路の整備に伴う魚の輸送時間の短縮効果は大きい(女川町) ○水産物の輸送は今まで東京までだったが、静岡・名古屋まで運送している(気仙沼市) ○水産物について、トラックヤードを整備したことで積み荷の積み替えトラックが集まってきている(気仙沼市)
	農産物・水産物	<ul style="list-style-type: none"> ○市内の加工所から海外へサバ、イワシ、カツオを輸出(気仙沼市) ○農産物は道の駅三滝堂の売り上げが伸びている(登米市)
施策		<ul style="list-style-type: none"> ○豊富な水産物、寿司を活かした誘客促進事業(宮城県) ○市内企業等に就職し、奨学金を返還している方の奨学金の一部を助成する「奨学金返還支援事業」を実施(栗原市)
課題		<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化や担い手・後継者不足(宮城県、栗原市、松島町) ○処理水による水産物への風評被害(石巻市、南三陸町) ○東北道ルートから三沿道ルートへの転換は休憩施設が少ないため使いにくい(気仙沼市) ○新たな企業の進出や増設により、既存産業用地の空き区画が少なくなっている(石巻市)

事前アンケート・ヒアリングの結果(自治体意見の抜粋)

- 観光面では、石巻港へのクルーズ船入港に関する物販参加や工場見学ツアーの実施、インバウンドに関しては海外からの問い合わせや外国人旅行者の増加等が挙げられている。
- また、気仙沼湾横断橋が観光資源となっており、今後供用予定の出島架橋も新たな観光資源として期待されている。

■観光(1/3)

		自治体意見
現状	アクセシビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ○仙台市は東京から最速90分で到着可能な新幹線駅があり、中部・関西方面の航空便も就航していることから、全国からのアクセスが良好(仙台市) ○三陸沿岸道路の整備により、移動時間が短縮し、仙台圏が近くなった(気仙沼市) ○仙台駅からレンタカーを借りて高速フリーパスを使えるようNEXCO、JRにお願い中(松島町)
	拠点・施設	<ul style="list-style-type: none"> ○気仙沼湾横断橋がランドマークとして、気仙沼市を選んでもらう有力なコンテンツとなっている(気仙沼市) ○昨年にビーチスポーツコートを整備し、今年度、ビーチスポーツのツアー会場となった(東松島市) ○「世界の持続可能な観光地トップ100」に宮城県で初めて選出(東松島市) ○出島架橋がR6.12に供用予定で観光資源として期待(女川町)
	クルーズ船	<ul style="list-style-type: none"> ○石巻港へクルーズ船入港にあたっては、町としても物販等で参加(松島町) ○大船渡港にクルーズ船(飛鳥Ⅱ)が入港した際は、気仙沼のフカヒレ工場見学ツアーが実施され、2万円のお土産30人分が即完売(気仙沼市)
	インバウンド	<ul style="list-style-type: none"> ○隠れキリシタンの里は韓国からの問い合わせもあり(登米市) ○インバウンドに期待(松島町) ○東南アジア系の外国人旅行者が増えている(女川町)

事前アンケート・ヒアリングの結果(自治体意見の抜粋)

- インバウンドに関する施策や石巻港に関する施策が複数の自治体で実施、検討中となっている。
- また、連携施策は隣接自治体間で行われているものが多い状況である。

■観光(2/3)

		自治体意見
施策	個別施策	<ul style="list-style-type: none"> ○仙台を起点とした東北観光のモデルコースを紹介するウェブサイトを作成中(令和5年10月上旬公開)(仙台市) ○石巻港に寄港するクルーズ船に対する平泉や松島方面、市内周遊プランが提供(石巻市) ○多賀城創建1300年のイベント(多賀城市) ○外国人観光客に観光協会を介して工場見学等を行っている(女川町) ○台湾をターゲットに観光協会で観光ツアールートの実案を実施(南三陸町) ○教育旅行や訪日外国人の誘致促進(観光協会に委託)(南三陸町)
	連携施策	<ul style="list-style-type: none"> ○「震災復興・伝承みやぎルート」を軸としたサイクルツーリズム(宮城県) ○塩竈市内、松島、秋保の宿泊施設において、市内参加店舗で利用できるクーポン付きパンフレットの配布(塩竈市) ○4市町連携事業「栗登一平」で観光誘客、婚活事業(登米市) ○周辺自治体と連携して台湾の旅行会社とオンライン商談会を行い、モデルコースや観光素材をPRし誘客を図った(東松島市)
	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ○インバウンドの受け入れ整備を検討(栗原市) ○アドベンチャーツーリズム事業の推進を検討(栗原市) ○矢本PAに隣接して道の駅を整備予定(東松島市) ○三陸沿岸に造成された「みちのく潮風トレイル」の利用促進について、周辺自治体と集客イベントの実施を検討したい(東松島市) ○令和5年11月に大型船ベリッシマが寄港予定であり、寄港した際の誘客を検討していく必要がある(東松島市) ○近隣自治体と連携したレンタサイクルを使った観光名所めぐり(塩竈市)

事前アンケート・ヒアリングの結果(自治体意見の抜粋)

- 課題として、財源確保や観光客受け入れの苦勞が挙げられている。
- また、町単体での施策実施が多いことや他自治体との連携きっかけづくりが課題として挙げられており、機会があればより多くの連携施策が実施できると考えられる。

■観光(3/3)

	自治体意見
課題	<ul style="list-style-type: none">○周辺市町村への周遊性向上 (宮城県)○インバウンドの受け入れ強化 (宮城県)○個別施策や連携施策の財源確保 (宮城県、仙台市、石巻市)○大型クルーズ船等の寄港に伴う三陸沿岸道路を活用した連携施策 (宮城県、東松島市)○他自治体との連携のきっかけづくり (仙台市)○経済効果につながるPR方法 (石巻市)○-half ICが多く、観光客への案内に苦慮 (気仙沼市)○観光地を周遊できる手段がない、車がないと行けない (登米市、栗原市)○オーバーツーリズム、ゼロツーリズムによる受け入れ側の疲労 (栗原市)○町単体での施策の実施が多い (南三陸町)

事前アンケート・ヒアリングの結果(自治体意見の抜粋)

- 三陸沿岸道路の整備後、所要時間の減少により生活圏が拡大。
- 医療に関して、石巻女川ICが整備されたことによる、石巻赤十字病院の搬送エリアの拡大や石巻赤十字病院へのアクセス性の向上が挙げられている。

■ 日常

		自治体意見
現状		○登米市や気仙沼市への所要時間は減少し、日常の生活圏が広がったと感じる (東松島市) ○学区制が廃止となり、仙台市に通学する生徒が増えた (女川町) ○気仙沼市から石巻イオンにきていると聞いている (女川町)
	施策	○気仙沼・南三陸地域移住者促進のための交流イベントを実施 (宮城県) ○JR石巻線、JR気仙沼線の利用促進、継続、乗客の増員等に向けた活性化策の検討 (宮城県) ○買物困難地域において買物支援を行う事業者に対し、車両購入等の補助を実施 (栗原市) ○原子力災害時の防災対応は、南三陸町の住民は登米市に避難することとなっており、避難ルートは三陸沿岸道路を位置付け (南三陸町)

■ 医療

		自治体意見
現状	救急医療	○三陸沿岸道路の整備により石巻赤十字病院の搬送エリアが広がった (東松島市) ○仙石病院、真壁病院の1次救急医療機関しかなく、2次救急医療機関は石巻赤十字病院である (東松島市) ○松島町からの救急医療は坂総合病院 (塩竈市) や石巻赤十字病院へ搬送 (松島町) ○救急搬送先は石巻赤十字病院、仙石病院 (女川町) ○石巻赤十字病院は登米市からの搬送が増えたと聞く (女川町)
	地域医療	○石巻市には3次救急医療機関は石巻赤十字病院があり、2次救急医療機関は市立病院等が4箇所ある (石巻市) ○石巻赤十字病院に行きやすくなったと感じる (東松島市) ○石巻女川ICができてから石巻赤十字病院に行くようになった (松島町)

事前アンケート・ヒアリングの結果(自治体意見の抜粋)

- 三陸沿岸道路に求めるものは、利用する人への観光情報の提供、トイレや案内看板、バス停等の施設整備となっている。
- 三陸沿岸道路の課題として、ガソリンスタンドの未設置や休憩施設の少なさが挙げられている。

■三陸沿岸道路に対する意見

	自治体意見
現状	<ul style="list-style-type: none">○インターチェンジ出口付近のごみ増加による景観悪化（宮城県）○2車線区間では事故による通行止めが多い（登米市）○仙台から登米市までの所要時間が1.5時間でも長いといわれる（登米市）○三陸沿岸道路ができてから、北（気仙沼市方面）に行くようになった（松島町）○気仙沼市に行くときに国道346号を使わなくなった（松島町）○朝晩はトラックが多く、無料区間が混雑（女川町）
求めるもの	<ul style="list-style-type: none">○Wi-Fi基地局の設置（宮城県）○通過する市町ごとのプッシュ通知等による観光PR（多言語対応）（宮城県）○休憩施設等での各市町の情報提供、PR等（石巻市）○トイレ等の利便性の充実（石巻市）○三陸沿岸道路において出口標記等と合わせて観光地を表示する案内看板の検討（東松島市）○三陸沿岸道路上への高速バス用のバス停整備（南三陸町）
課題	<ul style="list-style-type: none">○三陸沿岸道路におけるガソリンスタンドの未設置（松島町、女川町）○東北道ルートから三陸道ルートへの転換は休憩施設が少ないため使いにくい（気仙沼市）